

防災対策シリーズ連載 『備え』 ～ vol.29～

ペットの防災 ～同行避難～

災害はいつどこで発生するかわかりません。そして、それは大切なペットたちも同じです。防災対策は十分行われていると思いますが、ペットのための防災対策は十分でしょうか？

過去の震災において、いったん避難した飼い主が自宅に取り残されたペットを避難させるために自宅に戻り災害に巻き込まれたケースや、飼い主とはぐれて放浪状態となり野生化してしまうという問題が発生しました。このことを受け、環境省は「同行避難」を推進するガイドラインを策定し、災害時において、ペットは飼い主と「同行避難」することを原則としました。

「同行避難」とは、避難行動を示す言葉であり、ペットと一緒に安全な場所まで避難する行為を意味し、避難所でペットを人と同室で飼養管理することを意味するものではありません。そのため、ペットを受け入れてくれる避難所を把握しておくなど、同行避難の後のこともしっかりと準備しておくことが必要になります。そして何よりも、災害時に飼い主が無事であることが「同行避難」の大前提となります。

環境省の「人とペットの災害対策ガイドライン」には、避難のために以下の3点が重要となると示されています。

1. 飼い主が自らの安全を確保することが、災害時にもペットを適切に飼養することにつながる
2. 健康面やしつけを含めたペットの平常時からの適正な飼養が、最も有効な災害対策になる
3. 災害時にはペットを落ち着かせるとともに、逸走やケガなどに注意して、ペットとともに避難

※出典:環境省「人とペットの災害対策ガイドライン」



ペットを守ることができるのは飼い主だけです。自分が無事でないとペットは守れません。ペットを飼っている方、これからペットを飼う予定の方は、ペットの防災についても考えておきましょう。〈防災士 荻野勝也〉